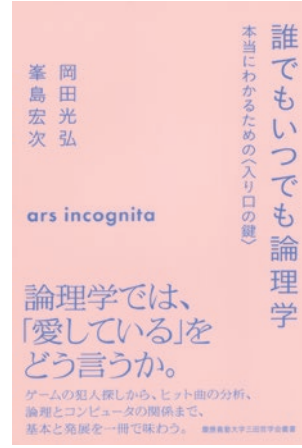
BOOK WINDOWS

慶應義塾に関連した出版物や教職員の新刊著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

「考える力」を養う 論理学へのはじめの一歩

『誰でもいつでも論理学―本当にわかるための〈入り口の鍵〉』

岡田光弘（名誉教授）・
峯島宏次（文学部教授）著
慶應義塾大学出版会／990円（2026年4月）



論理学を「難解な学問」ではなく、日常の思考を支える道具として体感できる入門書。会話型心理ゲームである「人狼ゲーム」の推理や古典落語の枕に使われる「風が吹けば桶屋が儲かる」、ヒット曲の歌詞分析など親しみやすい題材を通じて、論証や真理表、自然演繹、述語論理の基礎を丁寧に解き明かす。さらに、論理とコンピュータ、AIとの関係にも触れ、現代社会における論理学の意義を示している。哲学・言語・情報科学へとつながる「考える力」の入り口として、多くの保護者・塾生に薦めたい一冊だ。

教職員執筆の新刊

◉森林貴彦（幼稚舎教諭）ほか著
『子どもの自信の育て方』
アチーブメント出版／1980円（2026年4月）

◉平井靖史（文学部教授）編
『時間を哲学する―思考のためのツールボックス』
慶應義塾大学出版会／2200円（2026年4月）

◉藤野陽平（文学部教授）ほか編
『危機の時代のメディア論―思想と現場から問い直す「つながり」の現在地』
ナカニシヤ出版／2750円（2026年4月）

◉琴坂将広（総合政策学部教授）著
『経営戦略の進化〈理論編〉』
東洋経済新報社／3960円（2026年4月）

◉須田芳正（体育研究所教授）監修
『サッカー日本代表アタッカー動作解析図鑑』
カンゼン／1980円（2026年4月）

◉横森剛（理工学部教授）著
『燃えるとは何か』
集英社インターナショナル／1111円（2026年6月）

慶應義塾この一冊

『福沢諭吉―敗け続けの偉人』

久保田哲（2010年大学院法学研究科後期博士課程単位取得退学）著
集英社インターナショナル／1210円（2026年4月）

塾員でもある気鋭の日本政治史学者が、自身の専門分野である近現代日本政治史研究の成果を踏まえ、福澤諭吉を「敗け続けた偉人」という新たな視点から描き出した一冊。著者は『帝国議会』『明治十四年の政変』などの著作で近代政治史を掘り下げてきたが、本書では政府には加わらず民間人の立場を貫いた福澤にスポットを当て、その挫折や敗北のたびに思索を深め、挑戦を続けた姿を活写する。教科書的な偉人像を超え、現在まで続く慶應義塾の「独立自尊」の原点、そして福澤諭吉という人物の魅力を問い直す。

（価格は全て税込／編著者の職名は原則として発行当時のもの）